

2024年12月11日
楽待株式会社

第39回楽待杯

全国オール学生将棋選手権戦（個人戦）開催！

鈴木大介九段、高崎一生七段らによる指導対局も同日開催予定

本リリースのポイント

- ・日本将棋連盟主催の「楽待杯全国オール学生将棋選手権戦（個人戦）」が2025年1月に開催
- ・鈴木大介九段、高崎一生七段、渡辺和史七段らによる指導対局も同日開催予定
- ・CSR活動の一環として2017年から本大会に協賛し、今回で16回目の開催となる



国内最大の不動産投資プラットフォーム「楽待」 (<https://www.rakumachi.jp>) を運営する楽待株式会社（本社：東京都中央区、東証スタンダード、証券コード：6037）は、公益社団法人日本将棋連盟主催の「全国オール学生将棋選手権戦」に協賛しています。その個人戦が2025年1月12日に東京都で開催されるため、開催概要をお知らせいたします。優勝者には、楽待賞として彫埋駒と採用選考を一部ショートカットできる「楽待特別選考パス」を贈呈します。

■第39回 楽待杯 全国オール学生将棋選手権戦（個人戦）」概要

日程：2024年1月12日（日）9時30分受付 10時開始予定

※成績上位者は13日（月）駒テラス西参道 再集合

会場：KFC Hall & Rooms（都営大江戸線「両国」駅出口直結）

参加費：2000円

資格：小・中・高・大学等の現役学生（専門学校も可）

競技：以下の2つにクラスを分けて実施します

【Aクラス】有段者・希望者

【Bクラス】級位者

2勝通過2敗失格の予選の後、各クラスでトーナメント戦を実施

Bクラス敗退者同士での交流戦も指導対局と並行して実施

賞：【Aクラス】ベスト16以上に賞品、優勝者に五段免状

楽待賞として優勝者に彫埋駒、楽待特別選考パス、3位以上に対局時計

【Bクラス】3位以上に賞品（参加人数により変更する場合あり）

- ・定員：パスマーケットにて事前申込、Bクラスのみ先着64名
- ・募集期間：2024年12月11日（水）～2025年1月5日（日）まで

https://www.shogi.or.jp/event/2024/12/post_1891.html

■当日は指導対局も実施

当日は、プロ雀士としても活動されている鈴木大介九段や、高崎一生七段らによる指導対局も実施します。プロ棋士から将棋のアドバイスをもらえる貴重な機会になりますので、ぜひふるってご参加ください。

【参加予定棋士】鈴木大介九段、高崎一生七段、渡辺和史七段、中村亮介六段、山川泰熙四段

■将棋に協賛する理由

当社は論理的に思考することを大切にしており、それが旧社名である「ファーストロジック（最初に論理的思考）」の由来になっています。社名変更後もその思いは変わらず、日本の伝統文化である将棋を通し、若い世代に論理的に考えることの大切さを伝えたいと思い、2017年度から協賛をしています。

不動産投資の「楽待」概要

2006年3月に開設した「楽待」は、月間168万人が訪れる、使いやすさ・利用者数・掲載物件数No.1(*1)の不動産投資プラットフォームです。全国4900社の不動産会社が毎日物件情報を登録しており、ユーザーは自身の希望条件で絞り込んで、目当ての物件を探すことができます。

また、不動産投資専門メディア「楽待新聞」を通じ、業界のニュースや不動産投資の成功談・失敗談などを発信。YouTube「楽待 RAKUMACHI」はチャンネル登録者数102万人、総再生回数は4億1000万回にのぼります。（2024年12月時点）

不動産業界のDX（デジタルトランスフォーメーション）を促進するため、2020年6月には、不動産会社とオンライン通話ができる「ビデオ通話」機能もリリースしました。更に2022年6月には有料会員サービス「楽待プレミアム」を開始。登録することで、業界初(*2)の独自機能「賃貸経営マップ」やプレミアム会員限定動画が見放題になります。

「公正な不動産投資市場を創造する」というビジョンのもと、不動産投資家・加盟不動産会社の双方にとって使いやすい機能やサービスの提供に努めてまいります。

【会社概要】

楽待

社名：楽待株式会社

URL：<https://rakumachi.co.jp/>

上場市場：東証スタンダード（証券コード：6037）

本社：東京都中央区八丁堀三丁目3番5号 住友不動産八丁堀ビル5階

設立：2005年8月23日

事業内容：国内最大の不動産投資プラットフォーム「楽待」の運営

【本件の問い合わせ】

楽待株式会社 広報担当 尾藤

携帯電話：080-4129-5743

固定電話：03-6833-9438

E-mail：rakumachi@rakumachi.co.jp

*1 『物件数 No.1』：日本マーケティングリサーチ機構調べ（2022年12月）

『使いやすさ No.1』：ゴメス・コンサルティング調べ（2022年12月）

『利用者数 No.1』：自社調べ（2022年12月）

*2 自社調べ（2023年4月）

